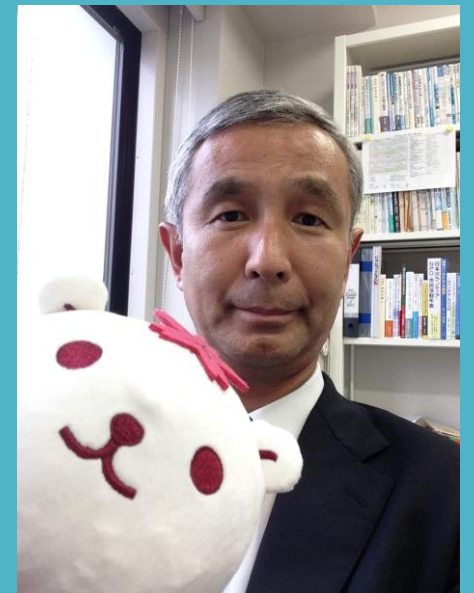


第7回部活動のあり方を考えるミニ研究集会 2020.10.10

部活動の全員顧問制を変える

学習院大学文学部
教育学科教授
長沼 豊



①教師が変えること

- 感情だけでは変えられない
- 一にも二にも理論武装を
給特法＋超勤の政令
部活動ガイドライン(運動部・文化部)
公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガ
イドライン(2019年1月)

顧問をしていない教員いわく

「顧問就任は職務命令ですか？」

「部活動は時間外に及ぶのでできません」

「勤務時間内だけならやります」

「部活動も在校等時間としてカウントされます」

「勤務時間の上限に関するガイドラインの超勤月
45時間以内を達成したいので無理です」

②学校が変えること

- ・部の数を減らす
（保護者、地域の理解を得る ⇒連携）
- ・目的別部活動への再編
（学校は何をするところか？の原点にかえる）

※今までの部活動は教育活動と選手育成の両方の目的を抱え込んでしまった

⇒肥大化した風船はパンク寸前

時間ベースで考えた改革も必要

部活動に限らずだが・・・

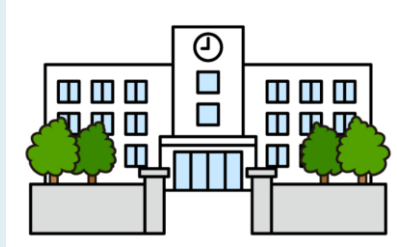
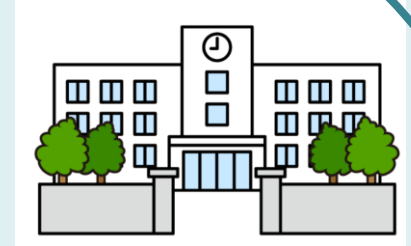
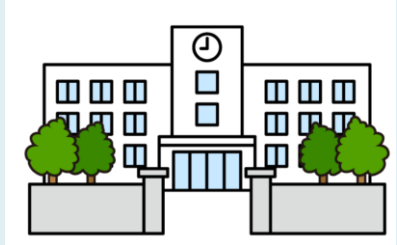
- ・教員の出勤時刻より生徒の登校時刻が早い
→はじめから「サービス早業」を想定している
- ・教員の退勤時刻より生徒の下校時刻が遅い
→はじめから「サービス残業」を想定している
 - ×企業ではあり得ない
 - ×まずはこのおかしさを意識しないといけない

③教育委員会が変えること

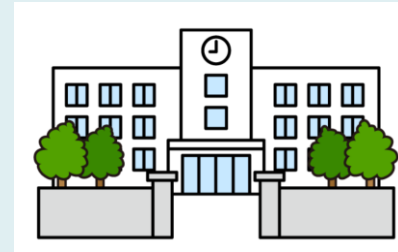
- 合同部活動を推進
- 拠点校方式を推進
(さらに目的別に再編)
- 地域移行(社会教育との連携)を推進
(3年後にはまず休日部分)

拠点校方式

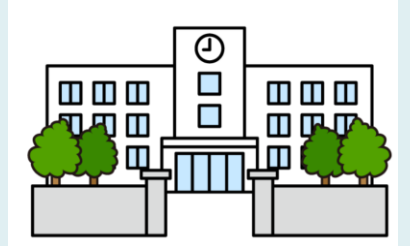
合同部活動



バスケ(合同部活動)



野球(拠点校)



サッカー(拠点校)



バスケ(拠点校)

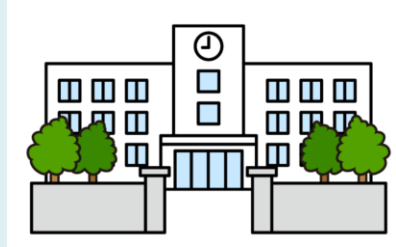


吹奏楽(拠点校)

まずは合同部活動や拠点校方式に
(どちらも生徒が移動して行う方式)
⇒拠点(活動場所)を地域に移行
or場所は学校で運営主体を学校から地域へ



目的別拠点(校)方式



選手養成バスケット部



異年齢交流型バスケット部
(地域展開)



趣味のバスケット部

- 生徒は地域の活動拠点の中から目的別に選べる
(放課後に移動が伴うのは同じ)
- この段階を経て全面地域移行へ(平日も)

★学校は同じ事をやるという発想を変える
(教育課程外で、放課後・休日だからこそ可能)
(少子化にも対応できる)

④国が変えること

- ・次の学習指導要領改訂がポイントになる
- ・部活動の地域移行は3年後に休日、次に平日
- ・では、学校は何もしなくなる？
- ・教育的意義(機能)を残したいなら特別活動のクラブ活動として復活させる(週1~2時間)
 - ※小学校は現存している
 - ※特別活動ゆえ生徒主体の活動として実施

⑤社会が変えること

- ・部活動を過大に評価することをやめる
入試、就職試験、教員採用試験等

※「高校入試の内申に響く」は都市伝説

- ・部活動に依存したプロ育成システムをやめて別ルートを創る

例) Jリーグのユース、卓球等のナショナルセンター

働き方改革は「意識改革」

今まで当たり前だと思ってきたことを当たり前だと思わない

→この考え方に立たないと改革は進まない

→大胆に発想転換する

→特に部活動

∵「学校の常識は社会の非常識」と言われている

タイタニック・ジョークを超えて

「みんなやっています」に弱い日本人

⇒相互に同調圧力をかけ過ぎない関係性の構築

⇒古き良き(悪しき?)ムラ社会からの脱却